

(様式3)

## 令和8年度要望課題の傾向と対応

水産業 部門

### 1 要望課題の検討経過

時 期	内容等
令和7年4月	農林水産技術会議から関係機関に要望課題の提出を依頼
5月	関係機関から要望課題の提出
6月	農林水産技術会議から水産試験場に要望課題の検討依頼
6~9月	各担当において要望課題を検討
9月	農林水産技術会議水産業専門分科会で検討
12月	農林水産技術会議へ回答
令和8年3月	水産試験場研究評価委員会にて、令和8年度試験研究課題設定について意見聴取予定

### 2 令和8年度要望課題の傾向及び課題化の視点

要望課題数は30課題となり、前年度より3課題増加した。

機関別課題数では、農林水産事務所からの要望が11課題であった。水産関係団体からの要望は、愛知県漁業協同組合連合会(11課題)をはじめ、愛知県養鰻漁業者協会(2課題)、弥富金魚漁業協同組合(2課題)、愛知県内水面漁業協同組合連合会(1課題)、愛知県淡水養殖漁業協同組合(1課題)、公益財団法人愛知県水産業振興基金(1課題)の6機関であった。

内容は、基本計画2030の3本柱に沿って、「漁業生産を支える健全な漁場環境の実現」に関する要望が6課題、「気候変動に対応した漁業生産技術の向上」に関する要望が18課題、「効率性の高い内水面増養殖技術の推進」に関する要望が6課題あった。

具体的な内容別では、栄養塩管理運転など漁場環境に関する要望が6課題、水産資源の管理など資源管理に関する要望が5課題、ノリの品種改良など海面養殖に関する要望が3課題、アサリなど二枚貝類や藻場回復など海面増殖に関する要望が10課題、ウナギ、アユ、マス類、キンギョなど内水面増養殖に関する要望が6課題あった。

これら30課題の要望は、全て基本計画2030に位置づけ、「継続」により課題設定した。